

## DAN DAN DANCE&SPORTSプロジェクト

プロジェクトリーダー

■ 横堀 美咲

体育学部  
生涯スポーツ学科 4年次生

詳しい  
活動報告は  
P9



チャレンジプロジェクトになった4年目の今年も、数々の活動を行ってきましたが、最も印象に残った活動は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会主催「東京2020学園祭」への出演です。メンバーのほとんどがダンス初心者でありながらも、アドバイザーである田巻先生や中村先生、コーディネーターの三橋さんのご指導のもと、毎日のように練習を繰り返し、迎えたイベントだからです。そこで「ベストパフォーマンス賞」という光栄な賞をいただいたことは、たくさんの方に私たちの活動を知ってもらえるきっかけとなりました。また、今までパフォーマンス団体を「支える」活動が多かった私たちにとって、自らパフォーマーとしてステージに立つ経験は、身体表現の楽しさを再認識する大変貴重な機会となりました。さらに、このイベントへの出演をきっかけに、学内で行われた「バスケットボール連盟リーグ戦のハーフタイムショー」や「建学75周年記念トークショーのオープニングセレモニー」への出演依頼をいただき、より多くの人に身体表現の楽しさを伝えることができました。このような素晴らしい経験ができたのは、活動を支えてくださった教職員の方々や先輩方など、多くの人との繋がりがあったからです。これからも、“人との繋がり”を大切に、身体表現を通して「する(踊る)」「観る」「支える」ことの楽しさを地域・社会へと伝えていく団体として日々成長していきたいです。



「東京2020学園祭」でベストパフォーマンス賞を受賞

## 3.11生活復興支援プロジェクト

プロジェクトリーダー

■ 杉山 愛

政治経済学部  
経営学科 2年次生

詳しい  
活動報告は  
P14



東日本大震災から7年が経ちました。当時中学1年生だった私は、被災地のために何かしたいと思いつつも、実際に行動することはできませんでした。しかし東海大学に入学して、「持続可能な開発のための復興支援」という活動理念を掲げ、地域に根付いた復興支援を目指すこのプロジェクトの存在を知り、活動に参加することを決めました。私が初めて東北を訪ねたのは大学1年生の7月です。その時初めて私は、震災から時間が経っているにもかかわらず、復興がまだ終わっていない被災地の姿を見ました。そして、2年生になってプロジェクトリーダーになり、より活動に熱心に取り組むようになりました。夏休みには、8月上旬に岩手県で子供たちを対象にした電子工作教室を行い、中旬には宮城県で昨年度建てた集会所のウッドデッキ建設を行い、下旬には再び岩手県に戻って“結の道”という遊歩道の整備を行うために約一か月間東北に滞在しました。活動をする中で、地域の方から「いつも来てくれてありがとう」「学生が頑張っているから私達も頑張れる」という言葉をいただいたことで、困難も乗り越えることができました。日本では現在、熊本地震や九州豪雨をはじめとする自然災害が身近に存在し、復興支援は欠かせないものになっています。そのため、今後も地域の自然や文化、伝統を尊重した復興支援に貢献できる活動を続けていきたいと思っています。



“結の道”の整備

## メカトロマイスタープロジェクト

プロジェクトリーダー

■ 堀 青蓮

基盤工学部  
電気電子情報工学科 3年次生

詳しい  
活動報告は  
P21



ソーラーカーやレスキューロボットを製作してレースやコンテストに挑むこと、ものづくり講習会やロボット教室などの社会貢献活動を行うことで、自らの知識や技術の習得、鍛錬を目的に活動しています。2017年度はソーラーカーチームにとって大きく躍進した年度となりました。昨年完成した新型ソーラーカー「Tokai Nextage」を改修し秋田県大潟村で開催されたワールドグリーンチャレンジに挑みました。大会に参加するにあたり、配線の全交換や足回りの組み直しなど車体の改修作業を行いました。特に大会前の大きな作業となったのはソーラーカーの空力性能に関わる部品を取付けることです。このことで、走行性能も上がり、大会では総合で準優勝、クラス別でも準優勝を獲得することができました。今回の受賞はひとえに地元企業の方々や大会運営、他チームなど多くの皆様の温かいご支援のおかげです。また、なにより入賞を目指して一所懸命にチーム一丸となって頑張ってくれたメンバーたちの努力の結晶だと実感しました。11月に開催された建学祭では秋田レースでのピットを屋外で完全再現し、搭乗体験やVR走行体験などのアトラクションを用意しました。いずれの催しも来場された多くの方に観覧、体験いただき、ソーラーカーチームの活動をより知ってもらえる良い機会となりました。また、ロボット教室をはじめ多くのイベントを開講し、ロボット工学分野に興味を持って頂ける様、地域貢献活動を行うことができました。



ワールドグリーンチャレンジに挑戦

## 阿蘇援農コミュニティプロジェクト

プロジェクトリーダー

■ 藤川 志津香

農学部  
応用植物科学科 3年次生

詳しい  
活動報告は  
P22



はや1年が経過した熊本地震は、活動拠点であった阿蘇校舎に甚大な被害を与えました。当時、一時活動停止状態となりましたが、地震から3ヶ月後に熊本校舎へと拠点を移して活動が再開されました。本プロジェクトは、農学部の校舎のあった阿蘇地域の農家さんのお手伝いをする中で、農家さんの農作業負担の軽減と実体験から生きた農業のノウハウを得ることが目的です。とにかく農業の現状を知ろうと、震災後も阿蘇地域の農家さんとの繋がりを絶やさず援農活動を行うことを大切にしてきました。それこそが活動の本質ですが、今年度は新たな取り組みによって、“知る活動”から“伝える活動”にステップアップできた1年でした。九州の農業系学生団体との交流や、熊本復興支援プロジェクトとの共同援農活動など、本プロジェクト以外との繋がりが持つことができました。その繋がりが「第6回食と農林漁業大学生アワード」を知り、大切な農家さん方のリアルな声を少しでも届けたいという思いで参加し、最優秀賞である『農林水産大臣賞』をいただくことができました。これは、農家さんと離れていても家族のような、本プロジェクトにしかない繋がりがあっての受賞です。プロジェクトの規模や知名度も着実に拡大しており、来年度は発足10年という節目を迎えます。繋がりを貴ぶこの活動の本質を曲げず、さらなる発展を目指す不易流行こそが地域を元気にする本プロジェクトに必要なことだと感じます。



毎夏うかがっている、産山村の皆さんと